

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 尾札部中 学校 学級数 4

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

鍛え、磨き、高めあう生徒

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

校内研究の進め方を見直す

### 1 取組のきっかけ

「確かな学び」を実現するためには学びの連続性を重視し、そのためには生徒と教師の両面から取り組んでいかなければならない。昨年から生徒の基礎基本の力をつけていくためには教師としてどんな力をつけなければならないかを考え、校内研修でその取組を進めることにした。特に進め方として教師全員が能動的に取り組み、互いに意見を交流しあえる場をもっと日常的に行いたいと考え今年度の校内研究を進めている。

### 2 取組の位置付け

研究担当が中心となり、より充実した研究内容となるよう進めている。

### 3 取組の方法

担当の分掌 →  
実施の回数 →  
実施の期日 →

教務

学期に2回程度

授業交流は9月～10月中で全教師で行う。

授業交流では分かる授業づくり共通実践4項目をもとに授業の視点10項目を設定し、それぞれの授業で何点かの項目に重点を置いて行う。参観者は参観シートを使い、気がついたことメモし、参観後に授業者にわたす。互いの授業を交流しあうことにより、子どもの実情にあわせた授業づくりを実践していくことが出来ると考える。まとめとして11月に行われる研究授業では全教師で参観し合し、「確かな学び」実現のための授業改善につなげていく。

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

\* 授業交流を行って

- ・わかる授業づくりを意識することにより、子どもの授業に対する姿勢に意欲がみられてきた。
- ・子どもの実情について共有することができた。（特に自分の教科以外の子どもの実情がわかった。）
- ・尾札部中の子どもの課題がみえてきた。→基礎基本が身につけていない  
→家庭学習の習慣化ができていない

\* 課題として

- ・日常的にわかる授業づくりを実践できるように → 準備する時間の確保
- ・家庭学習の習慣が身につくように → 家庭とも協力、意識改革
- ・基礎基本の定着に効果的な指導法を構築していく → 指導法の研修

### ○ 教育課程検証の方法

\* 「学校評価」による検証

・学校評価の内容

- ① 評価アンケート～「生徒アンケート」「保護者アンケート」「教職員アンケート」
- ② 学校評価教職員自己評価